

(学校番号 42) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【向小学校】

4月28日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より「知識・技能」において、国語は1.6pt向上させる、算数は0.1pt向上させる。	⇒ 「課題克服応援シート」を活用し、文の中における主語と述語の関係をとらえる指導を充実させる。ICTを活用する技能を系統的に指導し、ICT環境を基盤とした学習ができる児童を育てる。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より「思考・判断・表現」において、国語は2.4t向上させる、算数は1.5pt向上させる。	⇒ 目的に応じて複数のテキストを読むことができる授業を推進することで、読解力を向上させる。資料等を使って理由を説明する場面や、目的や意図に応じ資料等を使って話す場面を効果的に設定し、言葉による表現力を高める指導を充実させる。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答を、90%以上の割合を維持する。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行い、能動的に学ぶ態度を育てる。自分の学習を振り返る時間を適宜設定し、次への学習意欲を高める。

9月2日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	国語においては、目標値との有意差はなかったため、変更なし。算数においては、目標に届かなかったため、目標と方を追加し、R4年度市学習状況調査において「知識・技能」の平均正答率を、R元年度「技能」及び「知識・理解」の平均値より3pt向上させる。	⇒ 日常の場面に对应させながら割合について考えさせたり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表すことができるように指導する。
思考・判断・表現	国語においては、目標を上回ったため、目標を追加し、R4年度市学習状況調査の平均正答率をR元年度より2pt向上させる。算数においては、目標に届かなかったため、目標と方を追加し、R4年度市学習状況調査において「思考・判断・表現」の平均正答率を、R元年度「数学的な見方や考え方」より3pt向上させる。	⇒ 日常生活において数の大きさを見積もる必要があるときは、切り上げ、切り捨て、四捨五入の適切であるかどうかを判断し、目的に応じて概算できるように指導する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒

8月31日	
<b>全国学力・学習状況調査結果・分析</b>	
R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語+1pt、算数-6ptであった。国語、算数、理科において、全国平均を下回った。算数では、割合を用いて問題を解決する場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があった。理科は、器具の正しい名称の理解に課題があった。	
R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語+6pt、算数-8ptであった。国語においては全国平均を上回ったものの、算数と理科においては全国平均を下回った。算数では、示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題があった。理科では、自然の事象・現象から得た情報や、観察などで得た結果を、他者の気付きや結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題があった。	
R4年度全国学力・学習状況調査「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は89%であった。	

3月3日			
<b>さいたま市学習状況調査結果・分析</b>			
小3	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より国語-1.8pt、算数+4ptであった。国語の主語・述語の照応関係を捉える問題では、文の一番上に主語がない場合に主語と修飾語の区別がつかなくなる傾向が強い。算数では、数量の関係を表した図と式を関連付けて読み取ることに課題があった。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が算数が82%と市の平均を上回った。国語は75%とほほ市の平均と同じであった。	小4	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より国語-7pt、算数-2ptであった。国語では、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことに課題があった。算数では、3位数×3位数の乗法の計算、3位数÷1位数の計算に課題があった。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が算数が69%と市の平均を上回ったが、国語は66%と下回った。
小5	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より国語-1.2pt、算数-5ptであった。国語では、二文の中の主語と述語の関係、自分の考えが伝わるように適切な図表を用いて書き表し方を工夫すること、話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言することに課題があった。算数では、「数と計算」領域で、数量関係を正しく捉えることに課題があった。教科への興味・関心については、肯定的な回答が国語が80%、社会が90%、算数が71%、理科が91%といずれも市の平均を上回った。	小6	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より国語-7pt、算数-7ptであった。国語では、敬語の使い方や漢字の書き方など「言葉の使い方に関する事項」の領域に課題があった。算数では、「基礎問題」と「数と計算」の正答率が低く、特に分数に課題があった。教科への興味・関心については、肯定的な回答が理科が86%と市の平均を上回ったが、国語が64%、社会が74%、算数が58%と下回った。

3月8日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査より国語+1pt、算数-6ptであった。R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より国語は小3-1.8pt、小4-7pt、小5-1.2pt、小6-7ptであった。算数は小3+4pt、小4-2pt、小5-5pt、小6-7ptであった。	C
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査より国語+6pt、算数-8ptであった。R4年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R元年度調査より国語は小3-2.1pt、小4-1.1pt、小5-1.4pt、小6-8ptであった。算数は小3+1.1pt、小4-1.4pt、小5-8pt、小6+1.5ptであった。	C
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は89%であったが、R4年度さいたま市学習状況調査では91%で、目標を達成することができた。	A

3月10日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、主語・述語、漢字、敬語の使い方に課題があることから、「言葉の使い方に関する事項」の領域を全学年で重点的に取り組んでいきたい。算数では、基礎的な計算の定着に課題があることから、ドリル等の基礎的な問題に取り組む時間を設け、計算方法の習熟を図っていきたい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」に課題があることから、目的や相手を意識して話す場面を設定していきたい。算数では、目的に合った数の処理に課題があることから、数量の関係を言葉、数、式、図などを用いて簡潔・明確に表現したり、式の意味を読み取りたりする活動を重点的に取り組んでいきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5、6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上を維持し、1年生から4年生においても、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行い、能動的に学ぶ態度を育てていきたい。

※評価  
 A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
 B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)